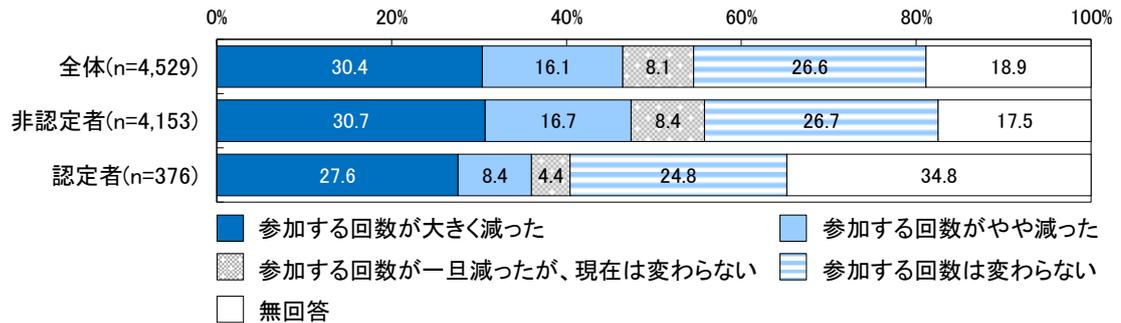


# 1. 感染症対策を踏まえた取組

## ● 新型コロナウイルス感染症の影響による地域活動への参加状況の変化

問5-3 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動等への参加状況に変化がありましたか。(1つだけ)

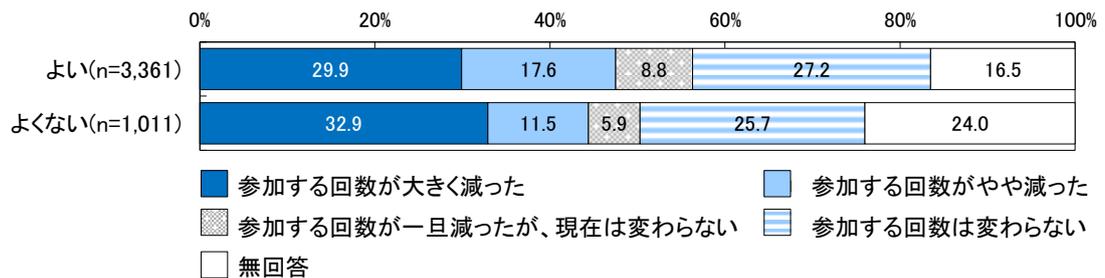
【新型コロナウイルス感染症の影響による地域活動への参加状況の変化（認定状況別）】



新型コロナウイルス感染症の影響による地域活動への参加状況の変化について、「参加する回数が減った」（「参加する回数が大きく減った」＋「参加する回数がやや減った」）と回答した人の割合が46.5%となっている。

また、認定状況別にみると、「参加する回数が減った」（「参加する回数が大きく減った」＋「参加する回数がやや減った」）と回答した人の割合は、非認定者で47.4%、認定者で36.0%となっている。

【新型コロナウイルス感染症の影響による地域活動への参加状況の変化（主観的健康感別）】



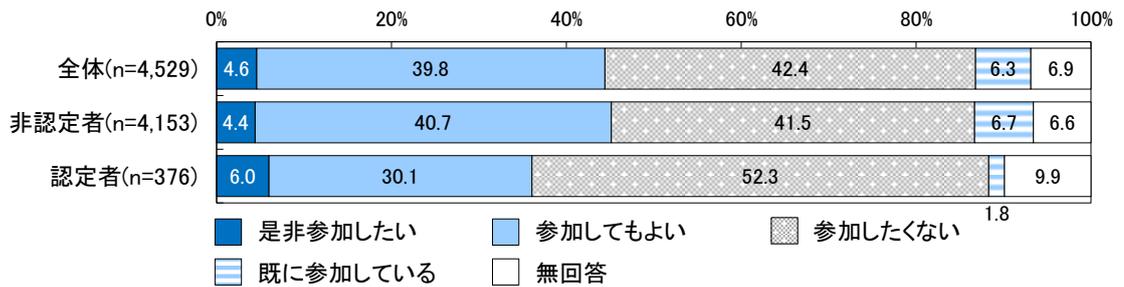
主観的健康感別にみると「参加する回数が減った」（「参加する回数が大きく減った」＋「参加する回数がやや減った」）と回答した人の割合に特徴的な差は見られない。

## 2. 地域づくり・社会参加

### ● 地域活動への参加者としての参加意向

問5-4 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つだけ)

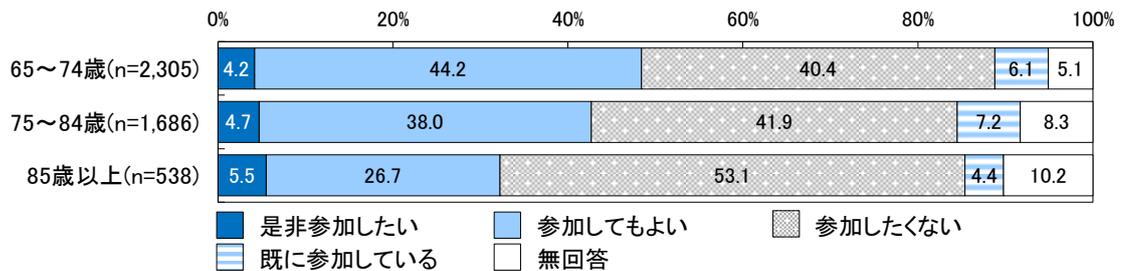
【地域活動への参加者としての参加意向（認定状況別）】



地域活動への参加者としての参加意向について、「参加したい」（「是非参加したい」＋「参加してもよい」と回答した人の割合が44.4%となっている。

また、認定状況別にみると、「参加したい」（「是非参加したい」＋「参加してもよい」と回答した人の割合は、非認定者で45.1%、認定者で36.1%となっている。

【地域活動への参加者としての参加意向（年齢別）】

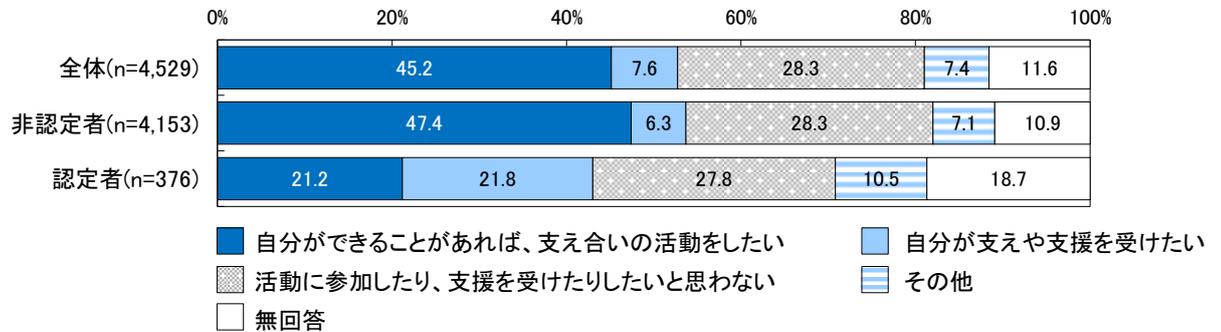


年齢別にみると、「参加したい」（「是非参加したい」＋「参加してもよい」と回答した人の割合は、年齢が上がるほど低く、「参加したくない」と回答した人の割合は、85歳以上で5割台となっている。

## ● 地域の支え合いへの関わり方

問6-8 あなたは、「地域における支え合い」にどのように関わりたいですか。(1つだけ)

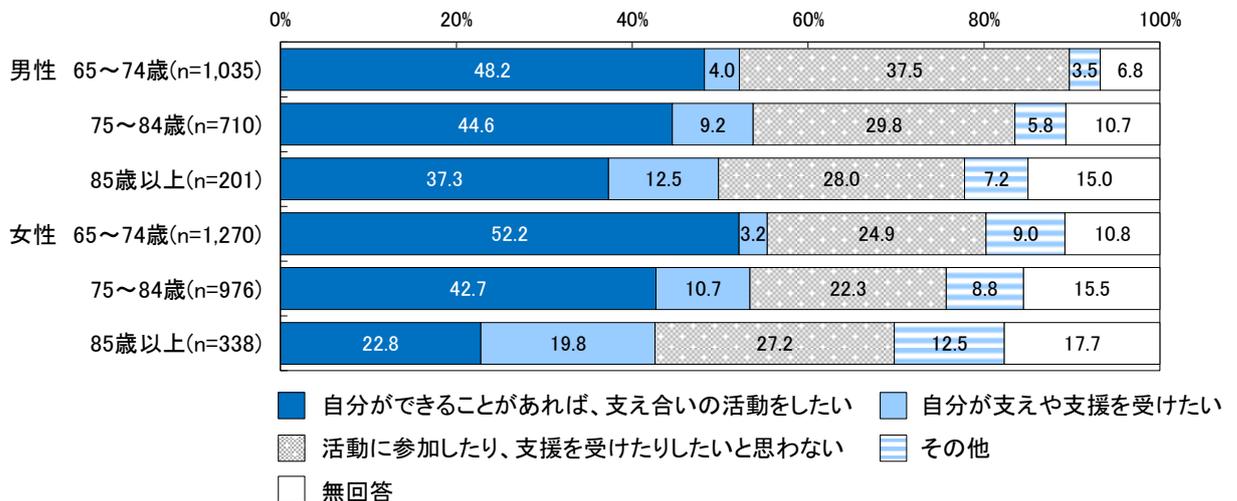
【地域の支え合いへの関わり方（認定状況別）】



地域の支え合いへの関わり方について、「自分ができることがあれば、支え合いの活動をしたい」と回答した人の割合が45.2%となっている。

また、認定状況別にみると、「自分ができることがあれば、支え合いの活動をしたい」と回答した人の割合は、非認定者で47.4%、認定者で21.2%となっている。

【地域の支え合いへの関わり方（性・年齢別）】

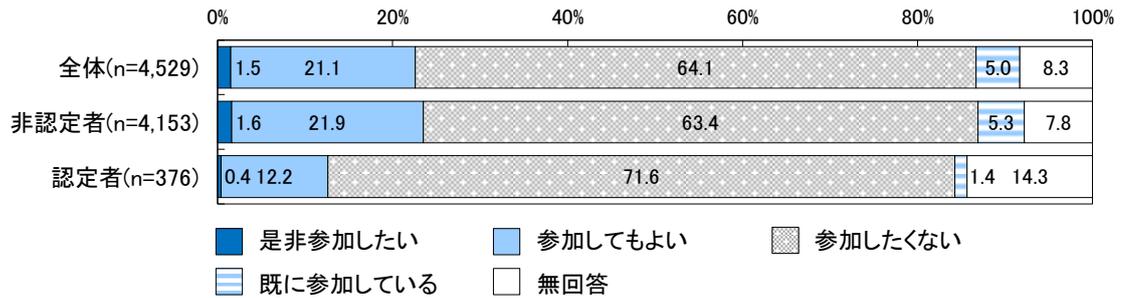


性・年齢別にみると、「自分ができることがあれば、支え合いの活動をしたい」と回答した人の割合は、女性65～74歳で5割台となっている。

## ● 地域活動への企画・運営としての参加意向

問5-5 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（1つだけ）

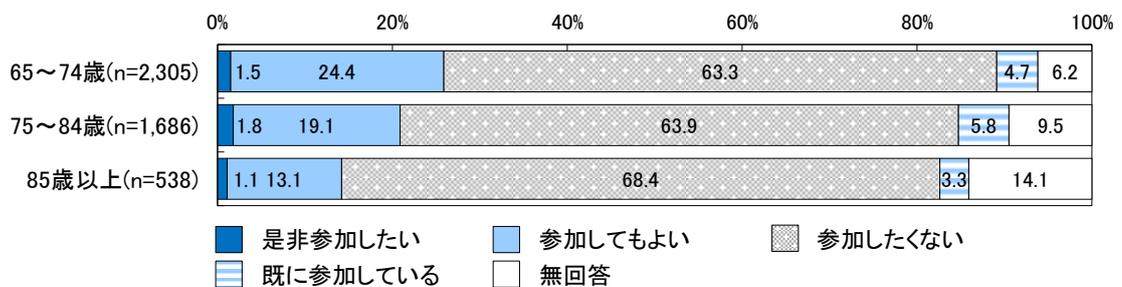
【地域活動への企画・運営としての参加意向（認定状況別）】



地域活動への企画・運営としての参加意向について、「参加したい」（「是非参加したい」＋「参加してもよい」）と回答した人の割合が22.6%となっている。

また、認定状況別にみると、「参加したい」（「是非参加したい」＋「参加してもよい」）と回答した人の割合は、非認定者で23.5%、認定者で12.6%となっている。

【地域活動への企画・運営としての参加意向（年齢別）】



年齢別にみると、「参加したい」（「是非参加したい」＋「参加してもよい」）と回答した人の割合は、年齢が上がるほど低くなっている。

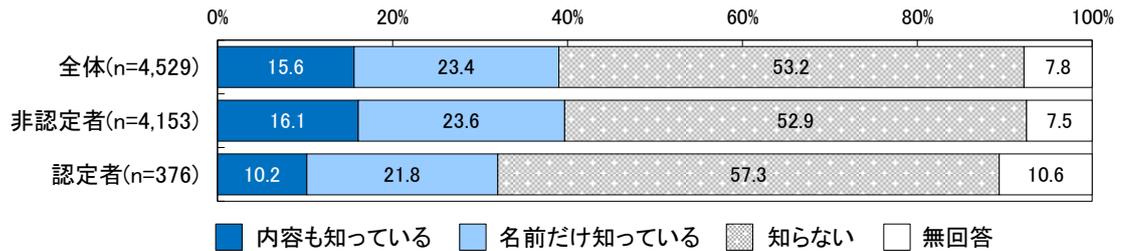
### 3. 介護予防

#### ● フレイルの認知度

問8-2 あなたはフレイル（虚弱）やフレイル予防という言葉を知っていますか。

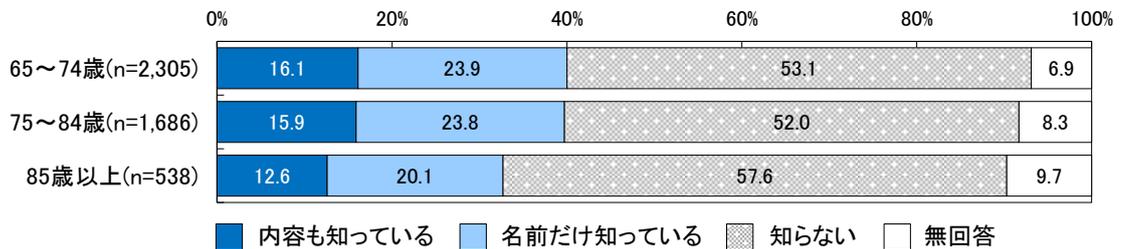
(1つだけ)

【フレイルの認知度（認定状況別）】



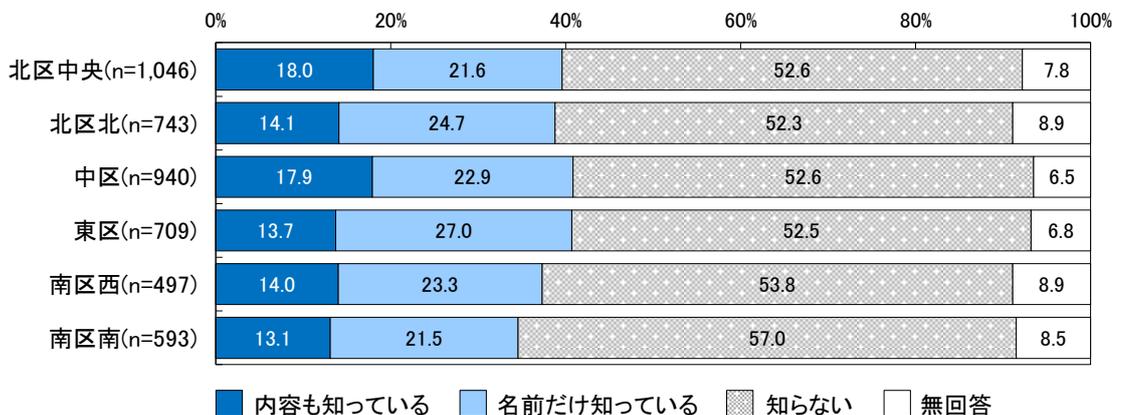
フレイルの認知度について、「内容も知っている」と回答した人の割合が15.6%となっている。また、認定状況別にみると、「内容も知っている」と回答した人の割合は、非認定者で16.1%、認定者で10.2%となっている。

【フレイルの認知度（年齢別）】



年齢別にみると、「内容も知っている」と回答した人の割合に特徴的な差は見られない。

【フレイルの認知度（福祉区別）】



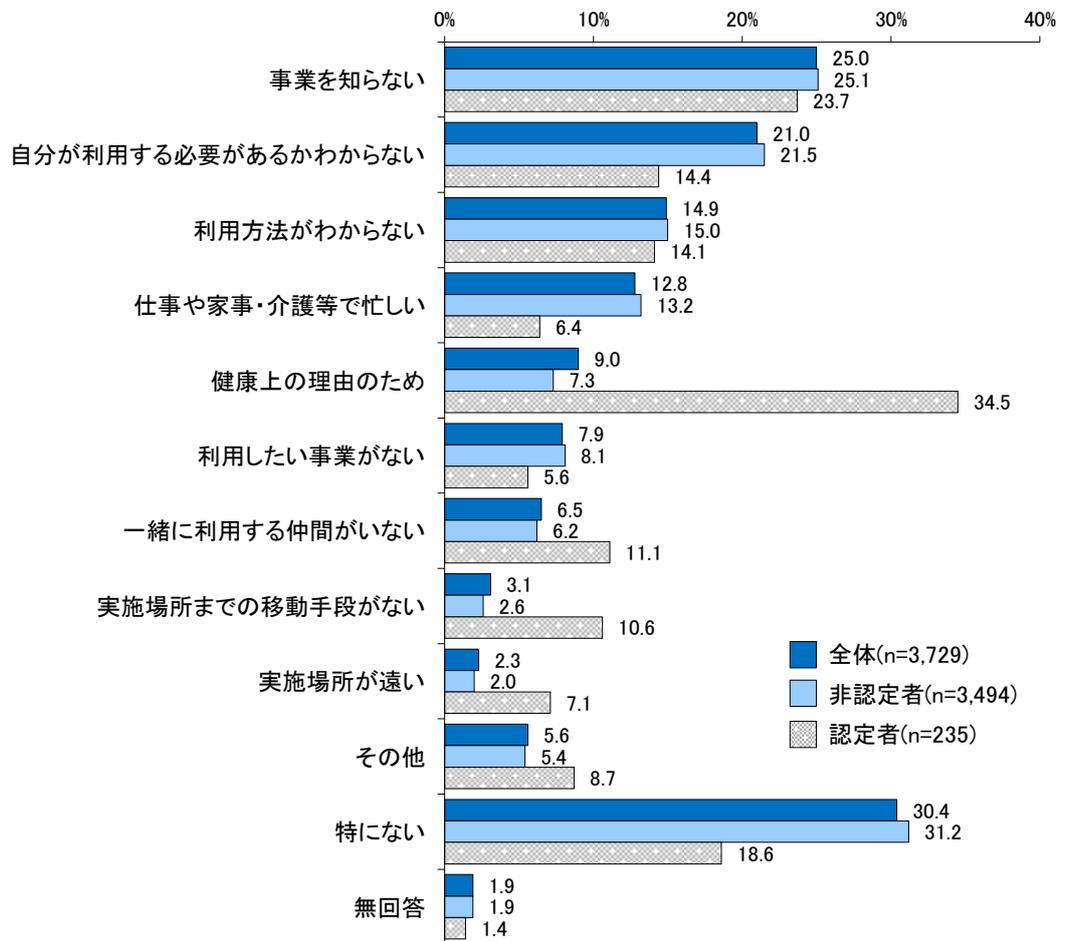
福祉区別にみると、「内容も知っている」と回答した人の割合は、北区中央、中区で1割台後半となっている。

## ● 介護保険外・一般介護予防事業を利用していない理由

問8-1で「5. 利用している者はない」と回答した人のみが回答

問8-1-① 現在利用しているものがないのはなぜですか。(いくつでも)

【介護保険外・一般介護予防事業を利用していない理由（認定状況別）】



介護保険外・一般介護予防事業を利用していない理由について、「事業を知らない」と回答した人の割合が25.0%と最も高く、次いで「自分が利用する必要があるかわからない」(21.0%) になっている。

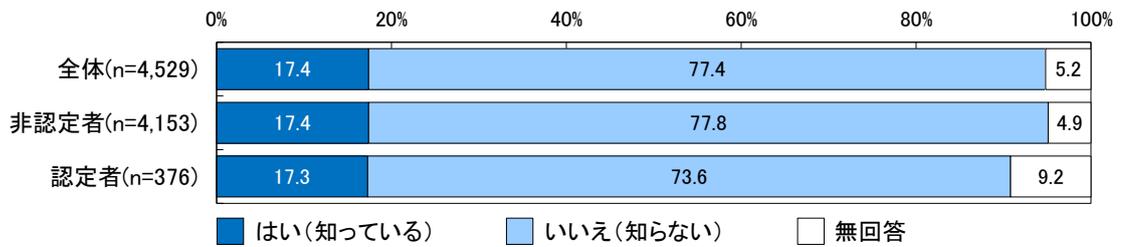
また、認定状況別にみると、非認定者では、「事業を知らない」と回答した人の割合が最も高く、次いで「自分が利用する必要があるかわからない」となっている。認定者では、「健康上の理由のため」と回答した人の割合が最も高くなっている。

## 4. 認知症

### ● 認知症に関する相談窓口の認知度

問9-4 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つだけ)

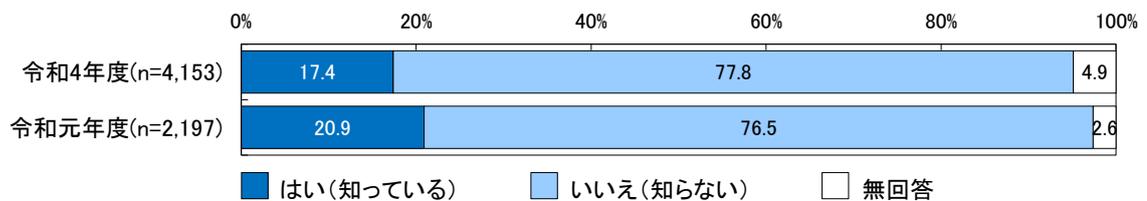
【認知症に関する相談窓口の認知度（認定状況別）】



認知症に関する相談窓口の認知度について、「はい（知っている）」と回答した人の割合が17.4%となっている。

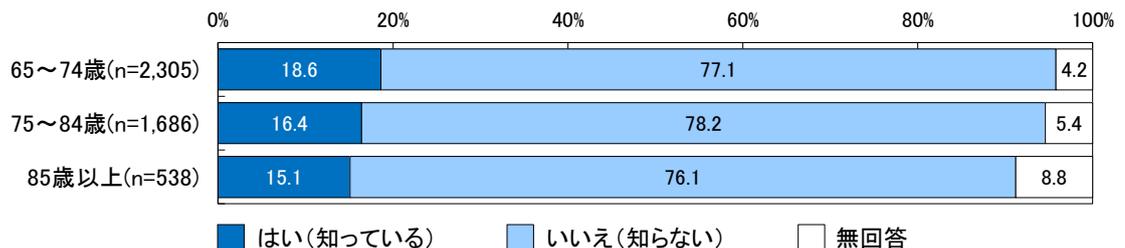
また、認定状況別にみると、「はい（知っている）」と回答した人の割合は、非認定者で17.4%、認定者で17.3%となっている。

【認知症に関する相談窓口の認知度（前回調査結果との比較（非認定者））】



前回調査結果と比較すると、「はい（知っている）」と回答した人の割合に特徴的な変化は見られない。

【認知症に関する相談窓口の認知度（年齢別）】



年齢別にみると、「はい（知っている）」と回答した人の割合に特徴的な差は見られない。

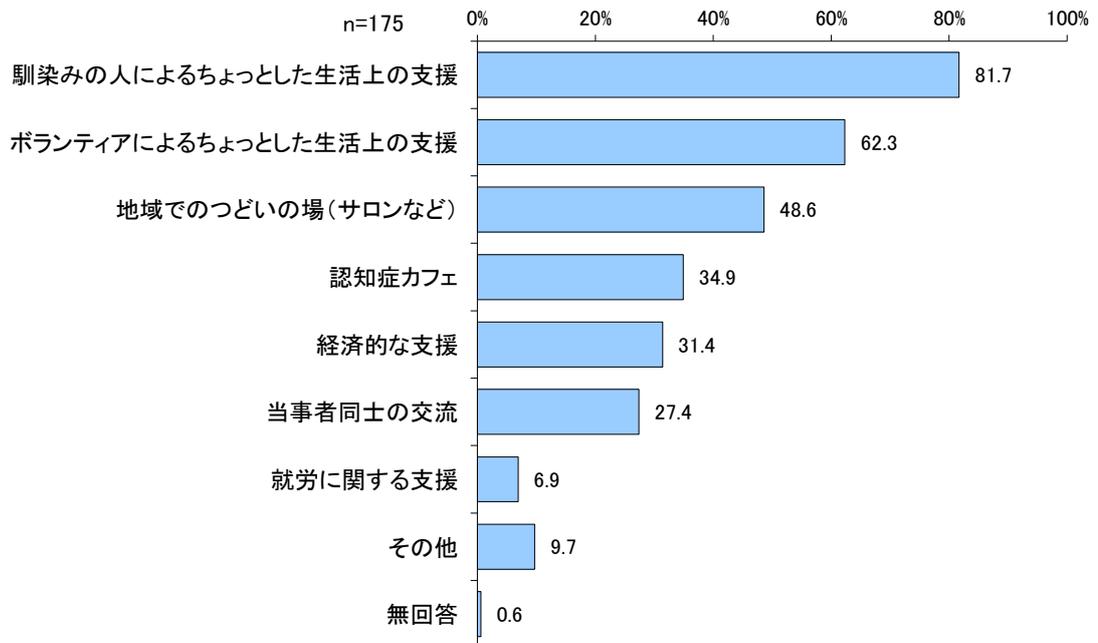
## ● 認知症の人の支援にあたり介護保険サービス以外に必要な資源

問5で「1 はい」と回答した事業所のみが回答

問5-1（事業所票）

具体的にどのような資源ですか。（いくつでも）

【認知症の人の支援にあたり介護保険サービス以外に必要な資源】

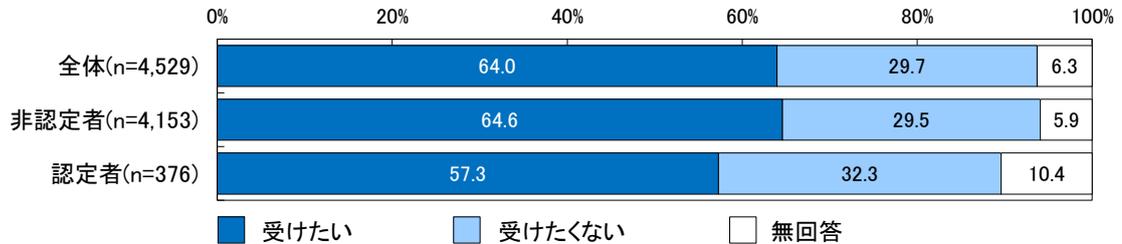


認知症の人の支援にあたり介護保険サービス以外に必要な資源について、「馴染みの人によるちょっとした生活上の支援」と回答した事業所の割合が81.7%と最も高く、次いで「ボランティアによるちょっとした生活上の支援」(62.3%)となっている。

## ● 認知症検査の受診意向

問9-3 認知症を早期に発見できる検査があれば、受けてみたいと思いますか。(1つだけ)

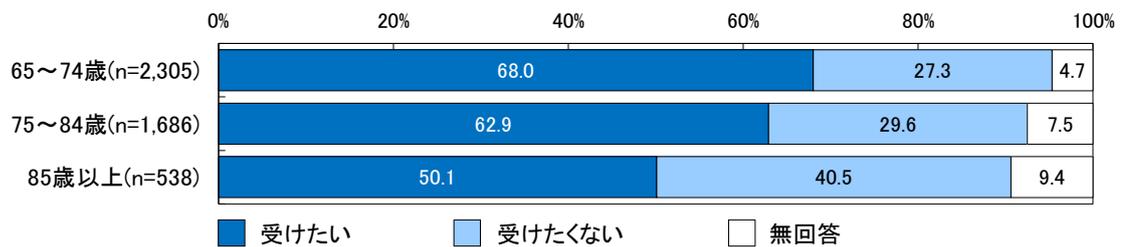
【認知症検査の受診意向（認定状況別）】



認知症検査の受診意向について、「受けたい」と回答した人の割合が64.0%となっている。

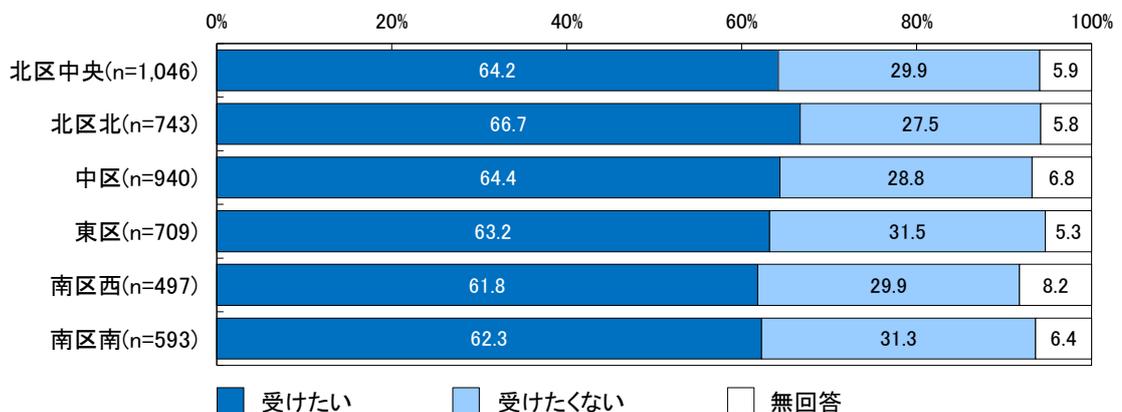
また、認定状況別にみると、「受けたい」と回答した人の割合は、非認定者で64.6%、認定者で57.3%となっている。

【認知症検査の受診意向（年齢別）】



年齢別にみると、「受けたい」と回答した人の割合は、年齢が上がるほど低く、85歳以上で5割台となっている。

【認知症検査の受診意向（福祉区別）】

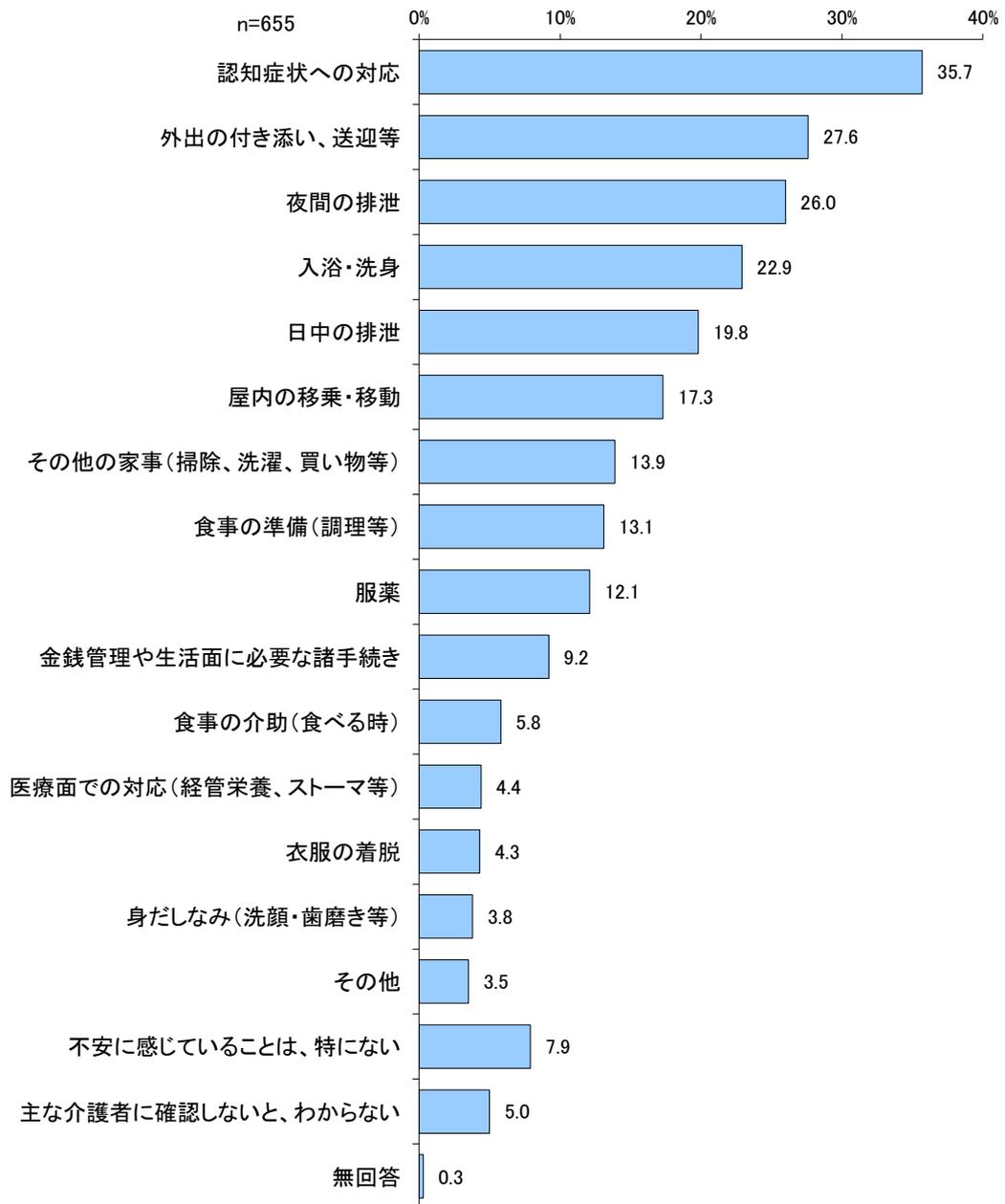


福祉区別にみると、「受けたい」と回答した人の割合に特徴的な差は見られない。

● 現在の生活を継続していく上で、不安に感じる介護

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）

【現在の生活を継続していく上で、不安に感じる介護】



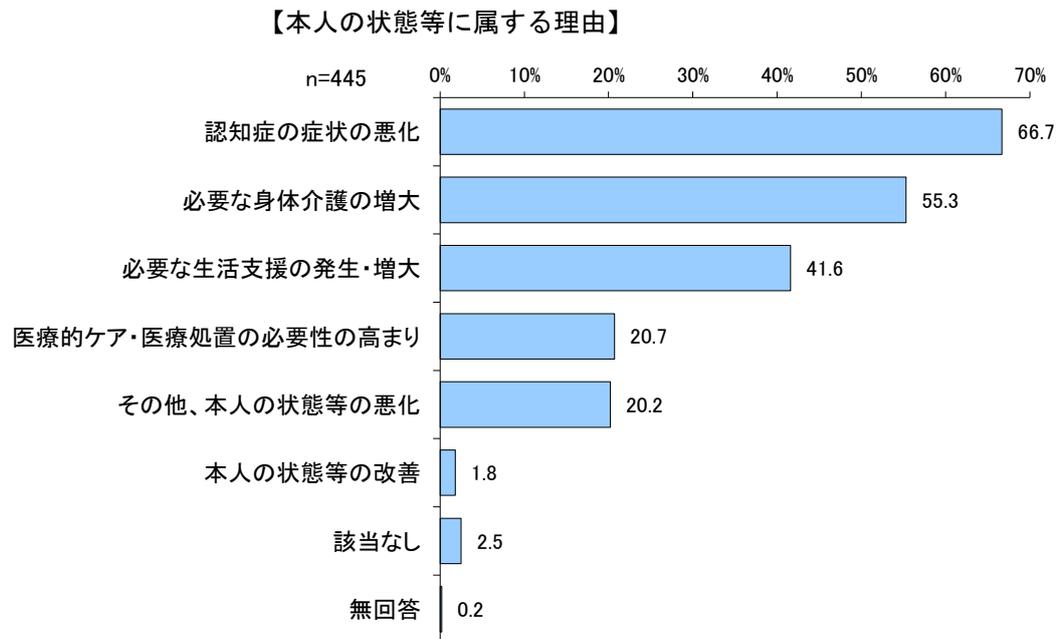
現在の生活を継続していく上で、不安に感じる介護について、「認知症状への対応」と回答した人の割合が35.7%と最も高く、「外出の付き添い、送迎等」(27.6%)、「夜間の排泄」(26.0%)、「入浴・洗身」(22.9%)、「日中の排泄」(19.8%)、「屋内の移乗・移動」(17.3%)が続いている。

## 5. 医療・介護連携

### ● 在宅での生活維持が難しくなっている理由

#### 問2-1 (利用者票)

現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由について、お伺いします。(本人の状態等) (あてはまる番号すべて)

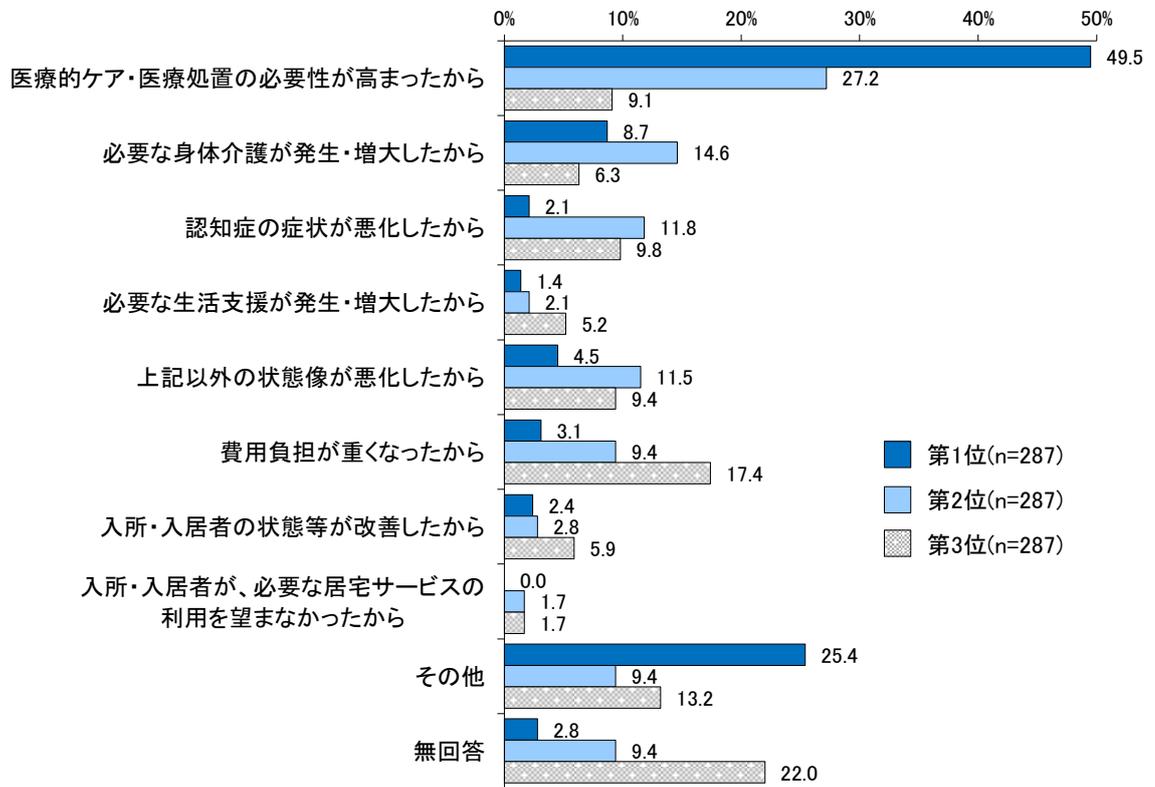


本人の状態等に属する理由について、「認知症の症状の悪化」の割合が66.7%と最も高く、「必要な身体介護の増大」(55.3%)、「必要な生活支援の発生・増大」(41.6%)が続いている

## ● 退所(居)の理由

問 12 貴施設等の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。(退去理由として多いものを上位3つまで)

【退所(居)の理由】



退所(居)の理由について、第1位では「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」と回答した事業所の割合が49.5%と最も高くなっている。

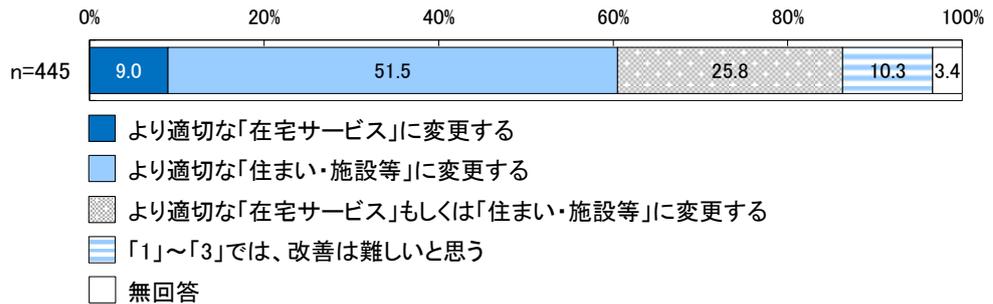
## 6. 居宅・施設サービス

### ● 生活維持のために必要なサービス

#### 問3-1 (利用者票)

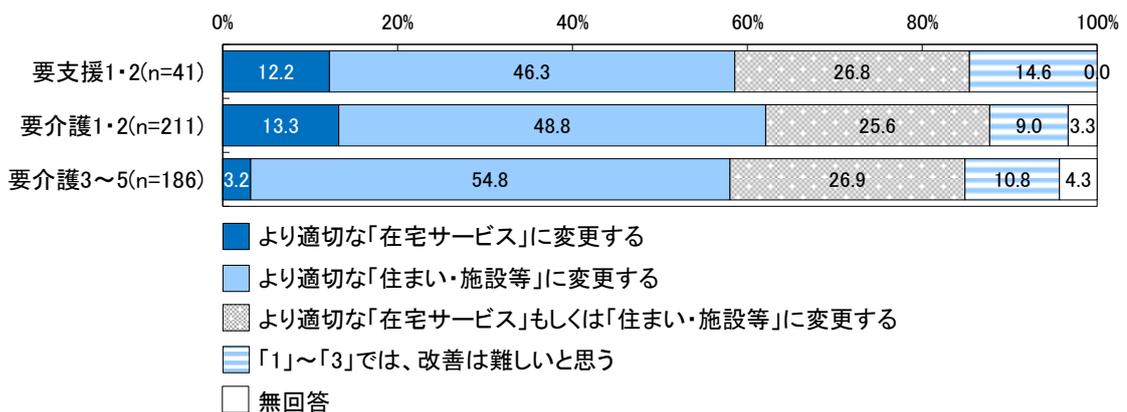
「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況に対して、どのようなサービスに変更することで改善できると思いますか。(1つに○)

【生活維持のために必要なサービス】



生活維持のために必要なサービスについて、「より適切な『在宅サービス』に変更する」の割合が9.0%、「より適切な『住まい・施設等』に変更する」の割合が51.5%、「より適切な『在宅サービス』もしくは『住まい・施設等』に変更する」の割合が25.8%となっている。

【生活維持のために必要なサービス（要支援・要介護度別）】



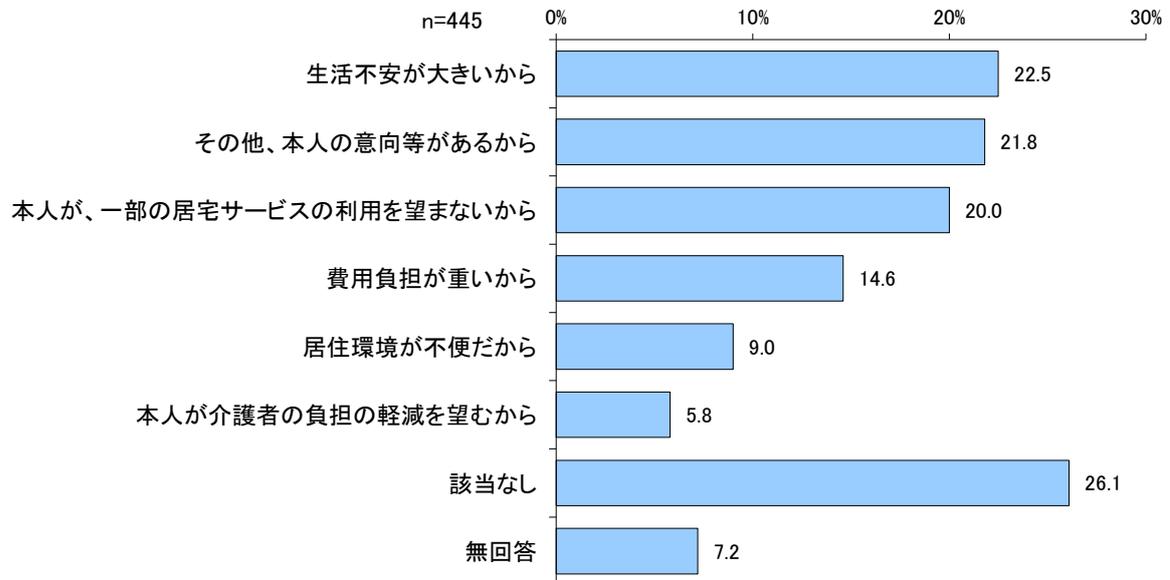
要支援・要介護度別にみると、「より適切な『住まい・施設等』に変更する」の割合は、要介護3～5で5割台となっている。

## ● 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由

### 問2-2 (利用者票)

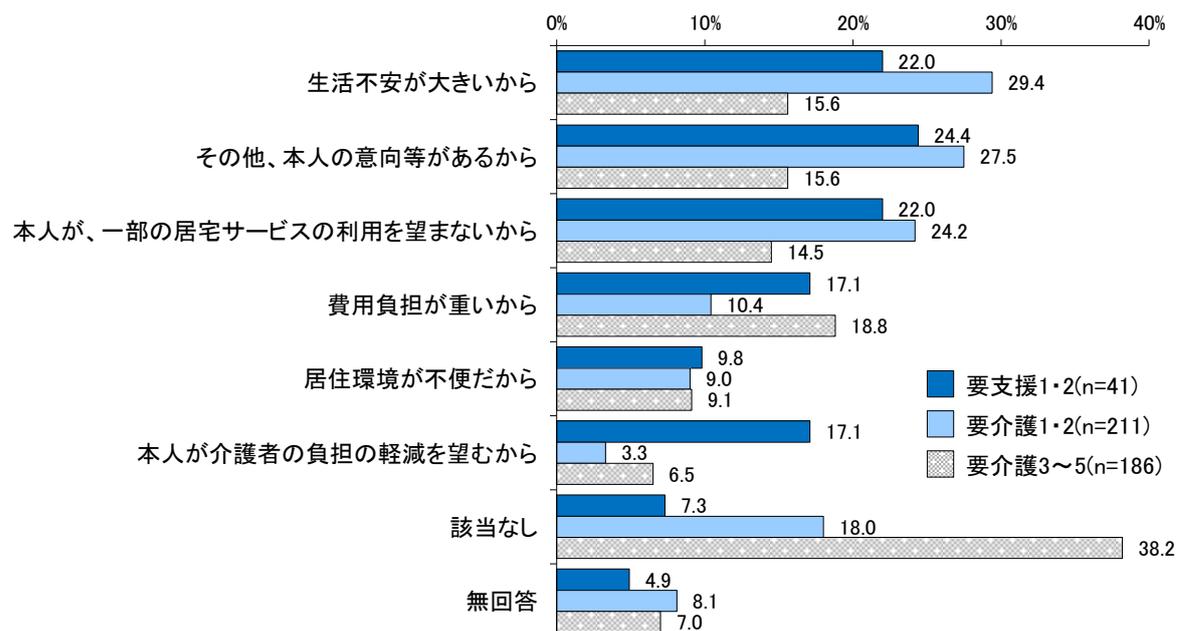
現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由について、お伺いします。(主に本人の意向等) (あてはまる番号すべて)

#### 【主に本人の意向等に属する理由】



主に本人の意向等に属する理由について、「生活不安が大きいため」の割合が22.5%と最も高く、「その他、本人の意向等があるから」(21.8%)、「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」(20.0%)が続いている。

#### 【主に本人の意向等に属する理由 (要支援・要介護度別)】



要支援・要介護度別にみると、「生活不安が大きいため」の割合は、要介護1・2で約3割となっている。

## ● 入所入居前の居所及び退去後の居所

【入所・入居前の居所及び退去後の居所（施設種別）】

		合計人数	自宅(兄弟・子ども・親戚等の家含む)	住宅型有料老人ホーム	軽費老人ホーム(特定施設除く)	サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	グループホーム	特定施設	地域密着型特定施設	介護老人保健施設
住宅型有料老人ホーム	入所・入居前	230	57.8%	8.3%	0.9%	0.9%	0.4%	0.4%	-	3.5%
	退去後	175	6.9%	4.0%	2.3%	2.3%	2.9%	4.0%	-	6.3%
軽費老人ホーム(特定施設除く)	入所・入居前	123	75.6%	0.8%	3.3%	1.6%	0.8%	-	-	12.2%
	退去後	129	7.8%	0.8%	2.3%	4.7%	7.0%	6.2%	-	23.3%
サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	入所・入居前	489	51.9%	1.4%	0.2%	7.6%	0.2%	1.0%	0.2%	6.3%
	退去後	499	9.4%	4.2%	-	3.6%	3.4%	2.8%	0.8%	2.6%
グループホーム	入所・入居前	277	49.5%	2.2%	1.1%	5.1%	2.9%	-	0.7%	20.6%
	退去後	258	1.6%	-	-	0.8%	2.7%	-	-	9.3%
特定施設	入所・入居前	365	38.9%	1.9%	1.4%	3.3%	0.5%	5.5%	-	15.3%
	退去後	356	2.0%	2.0%	-	1.4%	1.4%	4.2%	0.3%	4.5%
地域密着型特定施設	入所・入居前	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	退去後	-	-	-	-	-	-	-	-	-
介護老人保健施設	入所・入居前	1,518	36.2%	0.6%	0.1%	0.3%	2.8%	1.2%	-	1.1%
	退去後	1,439	30.6%	2.9%	0.6%	1.5%	5.1%	1.9%	-	0.6%
介護療養型医療施設・介護医療院	入所・入居前	79	25.3%	-	-	-	5.1%	3.8%	-	3.8%
	退去後	77	6.5%	1.3%	-	-	-	-	-	2.6%
特別養護老人ホーム	入所・入居前	506	32.4%	1.6%	0.2%	2.4%	4.3%	2.0%	-	20.6%
	退去後	514	1.0%	0.2%	-	-	-	0.2%	-	0.2%
地域密着型特別養護老人ホーム	入所・入居前	247	37.2%	4.9%	0.4%	5.7%	5.3%	2.4%	-	13.0%
	退去後	219	1.4%	-	-	0.5%	-	0.5%	-	0.5%

		合計人数	療養型・介護医療院	療養型・介護医療院を除く病院・診療所(一時的な入院を除く)	特別養護老人ホーム	地域密着型特別養護老人ホーム	その他	把握していない	死亡
住宅型有料老人ホーム	入所・入居前	230	0.4%	-	0.4%	-	21.7%	5.2%	-
	退去後	175	5.7%	11.4%	5.1%	0.6%	8.0%	1.1%	39.4%
軽費老人ホーム(特定施設除く)	入所・入居前	123	0.8%	-	-	-	2.4%	2.4%	-
	退去後	129	1.6%	10.9%	13.2%	2.3%	3.1%	-	17.1%
サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	入所・入居前	489	2.2%	-	2.5%	-	21.5%	4.9%	-
	退去後	499	3.6%	12.0%	6.2%	-	6.0%	2.8%	42.5%
グループホーム	入所・入居前	277	2.5%	-	-	0.7%	14.4%	0.4%	-
	退去後	258	7.4%	29.5%	11.6%	0.4%	1.9%	0.8%	34.1%
特定施設	入所・入居前	365	0.5%	-	0.3%	0.3%	30.1%	1.9%	-
	退去後	356	3.9%	16.6%	5.9%	-	7.9%	0.3%	49.7%
地域密着型特定施設	入所・入居前	-	-	-	-	-	-	-	-
	退去後	-	-	-	-	-	-	-	-
介護老人保健施設	入所・入居前	1,518	1.7%	-	0.3%	-	55.8%	-	-
	退去後	1,439	2.2%	16.8%	7.5%	1.5%	16.7%	-	12.1%
介護療養型医療施設・介護医療院	入所・入居前	79	-	-	13.9%	-	43.0%	5.1%	-
	退去後	77	1.3%	14.3%	5.2%	-	-	-	68.8%
特別養護老人ホーム	入所・入居前	506	1.2%	-	-	-	34.8%	0.6%	-
	退去後	514	1.8%	11.5%	0.6%	0.2%	2.7%	1.0%	80.7%
地域密着型特別養護老人ホーム	入所・入居前	247	4.5%	-	-	0.4%	26.3%	-	-
	退去後	219	5.5%	10.5%	1.4%	-	9.1%	-	70.8%

施設種別にみると、入所・入居前の居所が「介護老人保健施設」の割合は、グループホーム、特別養護老人ホームで2割台となっている。一方で、介護老人保健施設の退去後の居所は「自宅」の30.6%が最も高く、続いて「療養型・介護医療院を除く病院・診療所」(16.8%)、特別養護老人ホーム(7.5%)となっている。

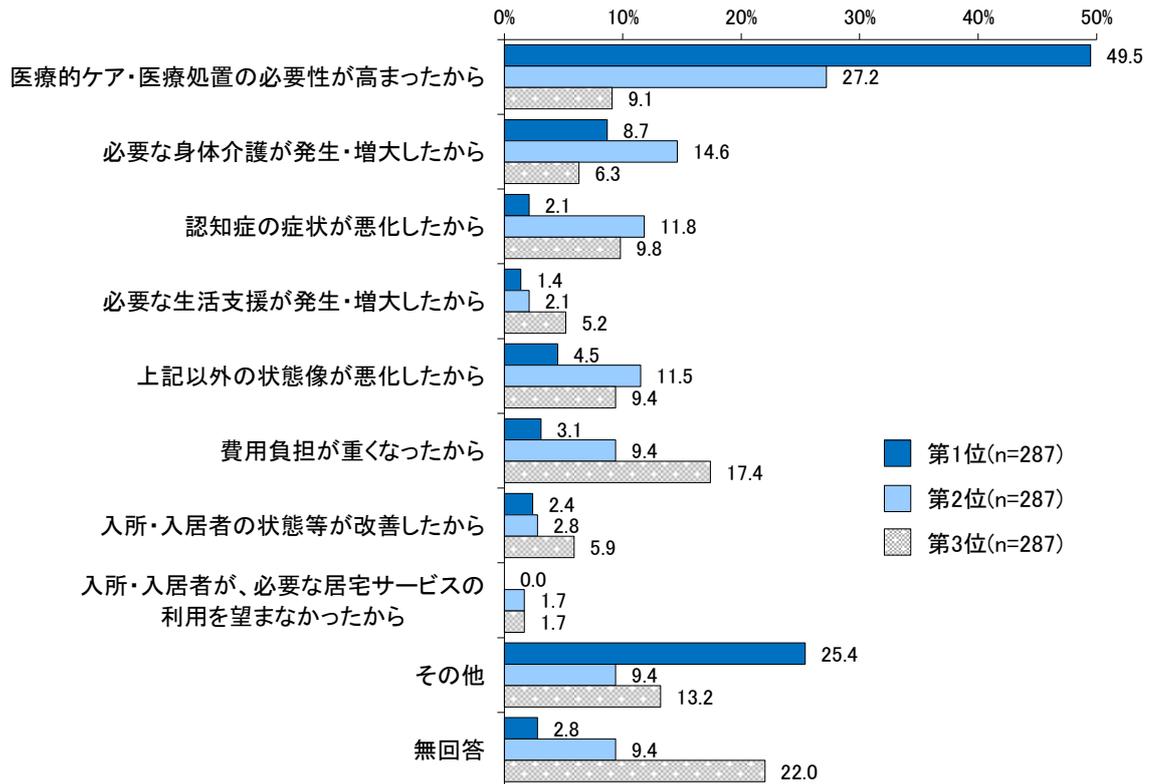
退去後の居所が「療養型・介護医療院を除く病院・診療所」の割合は、グループホームで約3割となっている。

(再掲)

## ● 退所(居)の理由

問 12 貴施設等の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。(退去理由として多いものを上位3つまで)

【退所(居)の理由】



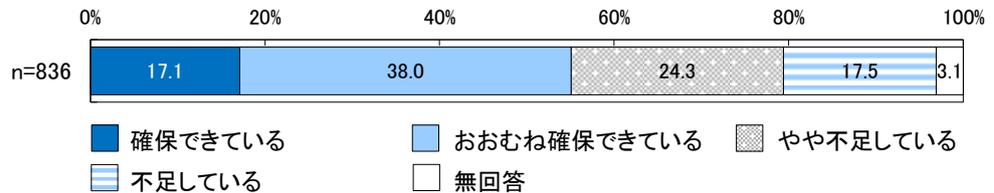
退所(居)の理由について、第1位では「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」と回答した事業所の割合が49.5%と最も高くなっている。

## 7. 介護人材

### ● 人材確保の状況

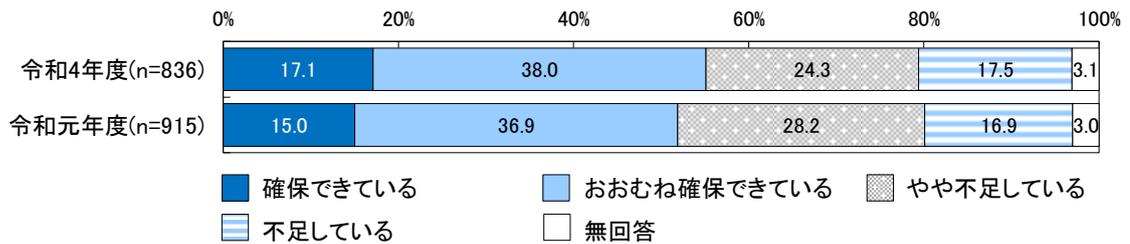
問10 人材確保の状況について、あてはまるものをお選びください。

【人材確保の状況】



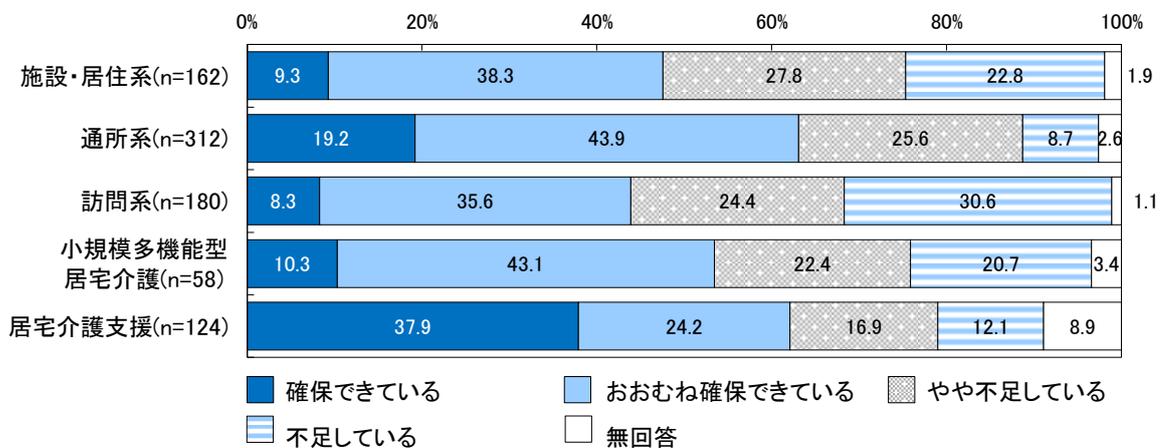
人材確保の状況について、「確保できている」（「確保できている」＋「おおむね確保できている」）と回答した事業所の割合が55.1%、「不足している」（「不足している」＋「やや不足している」）と回答した事業所の割合が41.8%となっている。

【人材確保の状況（前回調査結果との比較）】



前回調査結果と比較すると、特徴的な変化は見られない。

【人材確保の状況（サービス種別）】



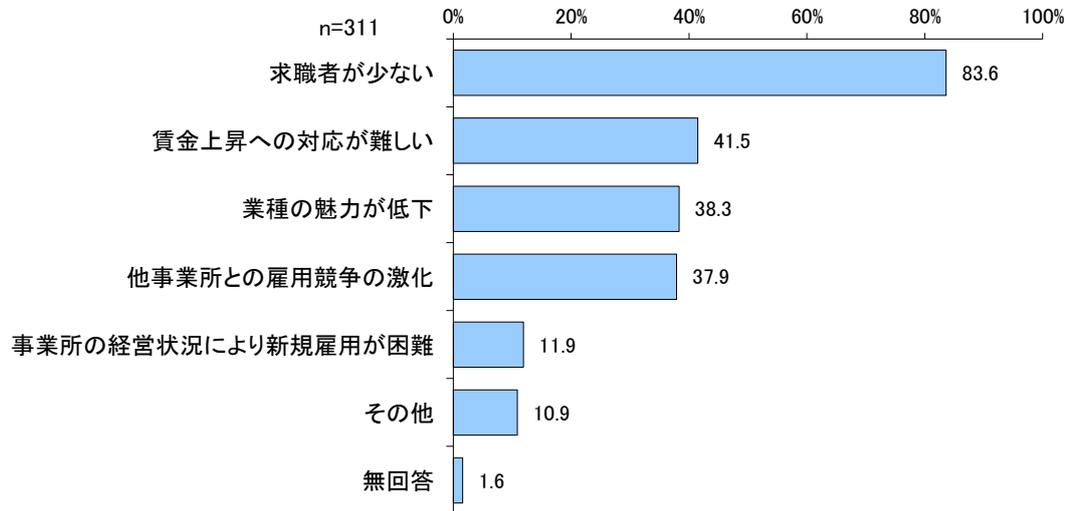
サービス種別にみると、「不足している」（「不足している」＋「やや不足している」）と回答した事業所の割合は、施設・居住系、訪問系で5割台となっている。

## ● 採用が困難な理由

問12で「1 採用が困難である」と回答した事業所のみが回答

問13 採用が困難である原因として考えられることは何ですか。(複数選択可)

【採用が困難な理由】



採用が困難な理由について、「求職者が少ない」と回答した事業所の割合が83.6%と最も高く、次いで「賃金上昇への対応が難しい」(41.5%)となっている。

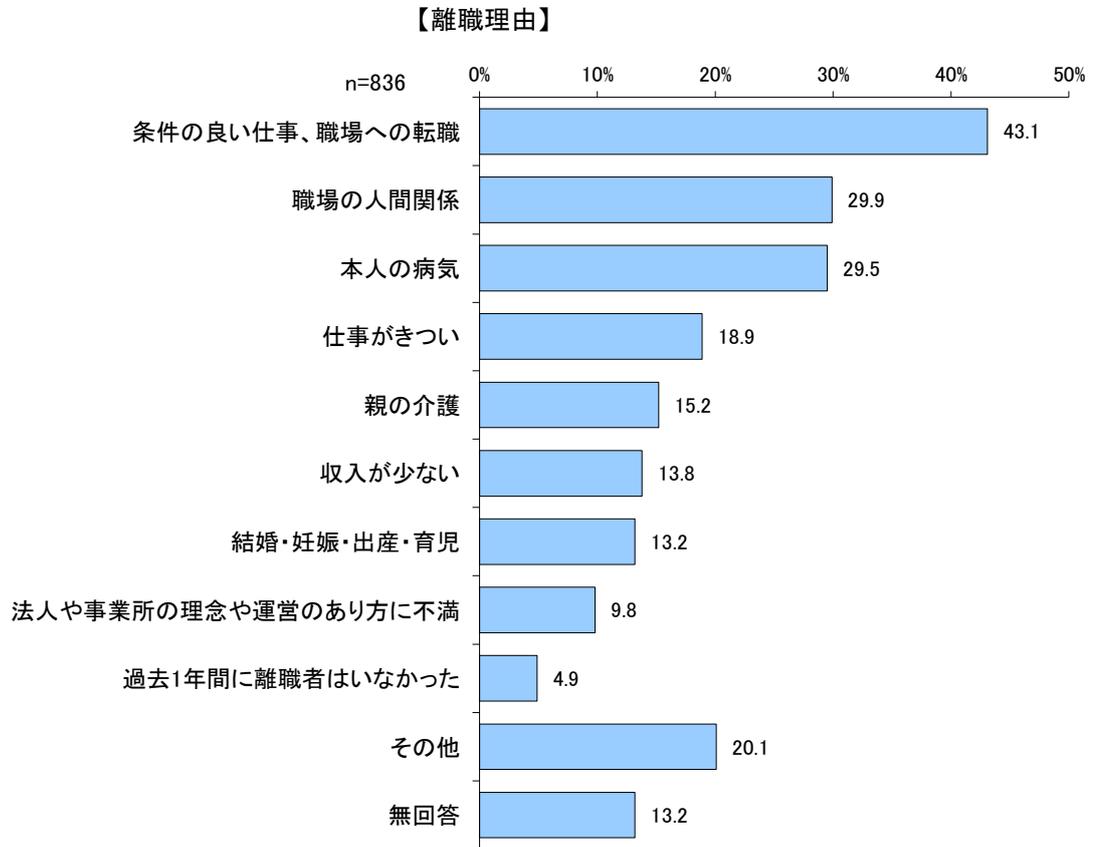
【採用が困難な理由（サービス種別）】

	回答数	求職者が少ない	賃金上昇への対応が難しい	業種の魅力が低下	他事業所との雇用競争の激化	事業所の経営状況により新規雇用が困難	その他	無回答
施設・居住系	76	88.2%	40.8%	39.5%	47.4%	3.9%	15.8%	-
通所系	94	75.5%	40.4%	24.5%	35.1%	20.2%	5.3%	3.2%
訪問系	87	87.4%	39.1%	47.1%	29.9%	11.5%	12.6%	2.3%
小規模多機能型居宅介護	22	81.8%	36.4%	27.3%	59.1%	-	9.1%	-
居宅介護支援	32	87.5%	56.3%	59.4%	31.3%	15.6%	12.5%	-

サービス種別にみると、「求職者が少ない」と回答した事業所の割合は、いずれのサービス種別においても最も高く、施設・居住系、訪問系、居宅介護支援で8割台後半となっている。

## ● 離職理由

問 16 平成31年4月～令和4年3月までに離職した職員の離職理由について、考えられることは何ですか。（複数選択可）



離職理由について、「条件の良い仕事、職場への転職」と回答した事業所の割合が43.1%と最も高く、「職場の人間関係」（29.9%）、「本人の病気」（29.5%）が続いている。